

「知床沼の野営禁止によって生じた諸問題とその解決に向けた提案」についての報告

羅臼山岳会

①提案の背景

- 知床沼は以前から知床岳登山のベースキャンプ地として利用されていた。
- 「青沼」から知床岳間、およそ14kmを往復する場合、運動生理学的に日帰り日程にすることは無理である。
- また、不明瞭な刈り分け道とハイマツ帯であることから14時間ほどの行程となり、陽のあるうちに青沼のテントサイトに帰着することは難しく、長時間行動による人身事故など山岳遭難が起きる可能性が高い。
- 近年は青沼以外の場所にテントを張るパーティーも見受けられ、知床沼周辺と同様の植生が野営により破壊されることが懸念される。
- 知床沼の北沼付近の一部にササやイネ科草本の草地があり、数張りのテント設営が可能である。
- 知床半島先端部地区利用の心得に違反し、知床沼で野営する登山者が確認されている。
- 知床沼方面の利用者数について、平成18年ごろまでは200名程度であったが、平成23年以降は100名程度で推移しており、ピーク時のおよそ半数となっている。

②提案の具体的内容

- 利用の心得の一部修正を行い、知床沼北沼付近の指定地域は野営禁止区域から除外する。
- 野営禁止の範囲を知床沼に限らず周辺の湿原にも拡大する。

③適正利用・エコツーリズム検討会議からの指摘事項への対応

<知床沼の希少な湿原植生が適正に保全されるよう、必要な対策を講じること。>

- 野営禁止を解除する地域はロープ等により明示する。また、具体的な地域の設定に当たっては、斜里山岳会の内田氏（知床博物館学芸員）の指導を得る。
- 植生及び利用者のモニタリング結果を関係機関（釧路自然環境事務所、北海道森林管理局、羅臼町、羅臼山岳会）と共同で確認し、状況に応じて必要な対策を検討する。

<モニタリングを行い、湿原植生への影響を把握すること。>

- 野営禁止を解除する地域の植生について、毎年利用者の多い時期に定点からの写真撮影を行い、あわせてテント数など野営状況も把握する。
- 利用者カウンターや入林簿により利用者数を把握する。

④知床沼野営禁止区域一部除外作業の実施

●作業実施日と作業人数

作業は2013年6月30日～7月1日の2日間に渡って行われ、釧路自然環境事務所、北海道森林管理局、知床財団、斜里山岳会、羅臼山岳会から計9名が参加した。

●作業内容

内田暁友氏（知床博物館学芸員・斜里山岳会）のアドバイスで湿原植生に影響のない範囲を選定し、野営禁止除外区域を決定した。広さは約47㎡で、4人用テント3～4張り程度が可能である。（写真1）

鉄ピンとロープで範囲を明確にし、遠目から認識できるように鉄ピンの頭部にピンクテープを付けた。

写真撮影モニタリング（付属資料1）のため、撮影定点の確定と撮影を行った。

⑤写真撮影モニタリングの実施

2013年8月27日～28日、羅臼自然保護官事務所により、2013年度の写真撮影モニタリングが実施された。結果、写真上では植生への影響等は特に確認できず、現地でも登山者の利用による植生への影響は特に認められなかった。なお、両日とも他の利用者は確認しなかった。（付属資料2）

⑥知床沼の利用人数について

2013年の利用人数（付属資料3）と近年の利用人数推移（付属資料4）を見る限り、利用者には大きな変動は見られない。

⑦知床半島先端部地区利用の心得の改定と普及啓発について

釧路自然環境事務所にて、知床沼の野営等の記述を修正した利用の心得を印刷するとともに、ホームページの修正を行った。また、新たに利用の心得を周知するためのパンフレットを作成した。



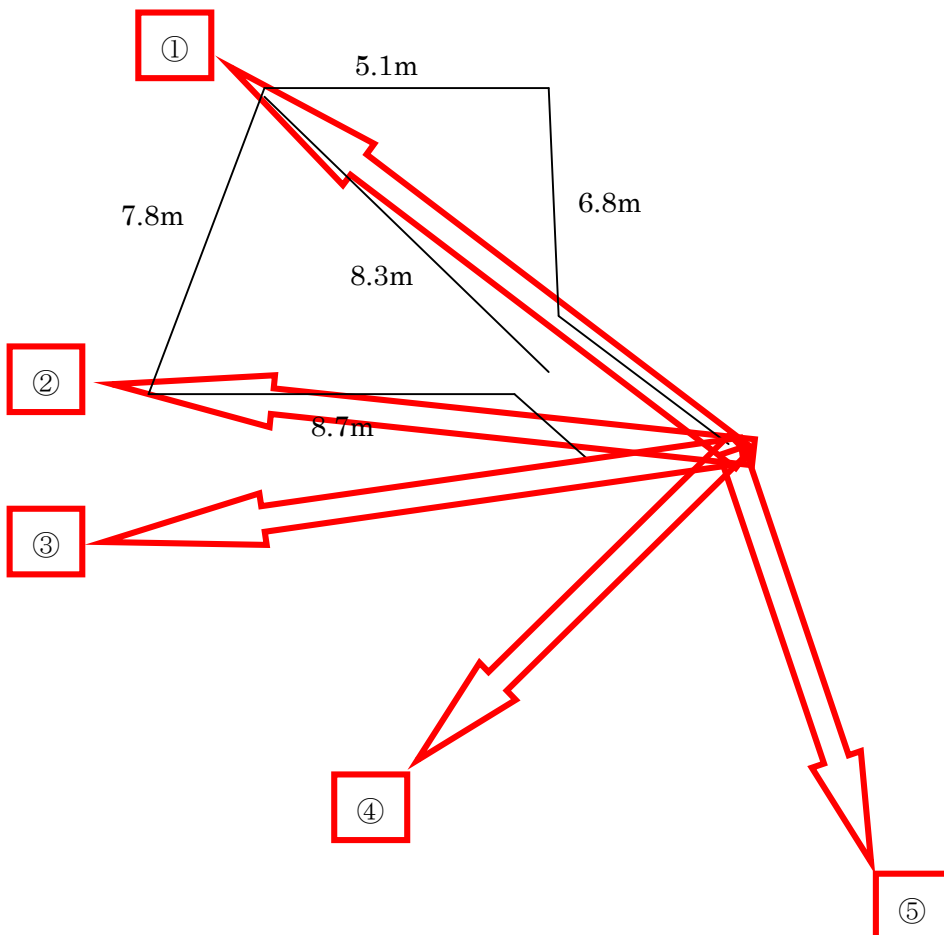
写真1 野営禁止除外区域

知床沼における写真撮影モニタリングについて

※知床沼における野営禁止区域の一部除外について、その植生への影響を把握するために写真撮影によるモニタリングを行う。

※写真撮影は全て除外区域の入口側のロープ端を起点とし、5方向の写真撮影を行う。シーズン中の利用状況を把握するため、シーズン終盤の秋にモニタリングを行う。

- ①除外区域の内部の状況をモニタリングする。起点からのロープと同じ方向をカメラの中心とする。角度は 53°
- ②除外区域の外側の植生への影響をモニタリングする。除外区域を設定しているロープの角をカメラの中心とする。角度は 18°
- ③除外区域の外側での野営状況を把握するため、過去に野営されていたと思われる湿原植生の状況をモニタリングする。付近のミネヤナギをカメラの中心とする。角度は 330°
- ④知床沼までの踏み分け道及び知床岳方面への踏み分け道の状況をモニタリングする。それぞれの踏み分け道の間にあるハイマツ及び岩をカメラの中心とする。角度は 282°
- ⑤青沼方向の踏み分け道の状況をモニタリングする。知床沼付近のダケカンバをカメラの中心とする。角度は 230°



2013 年度 知床沼モニタリング結果

①



②



③



④





結果概要：

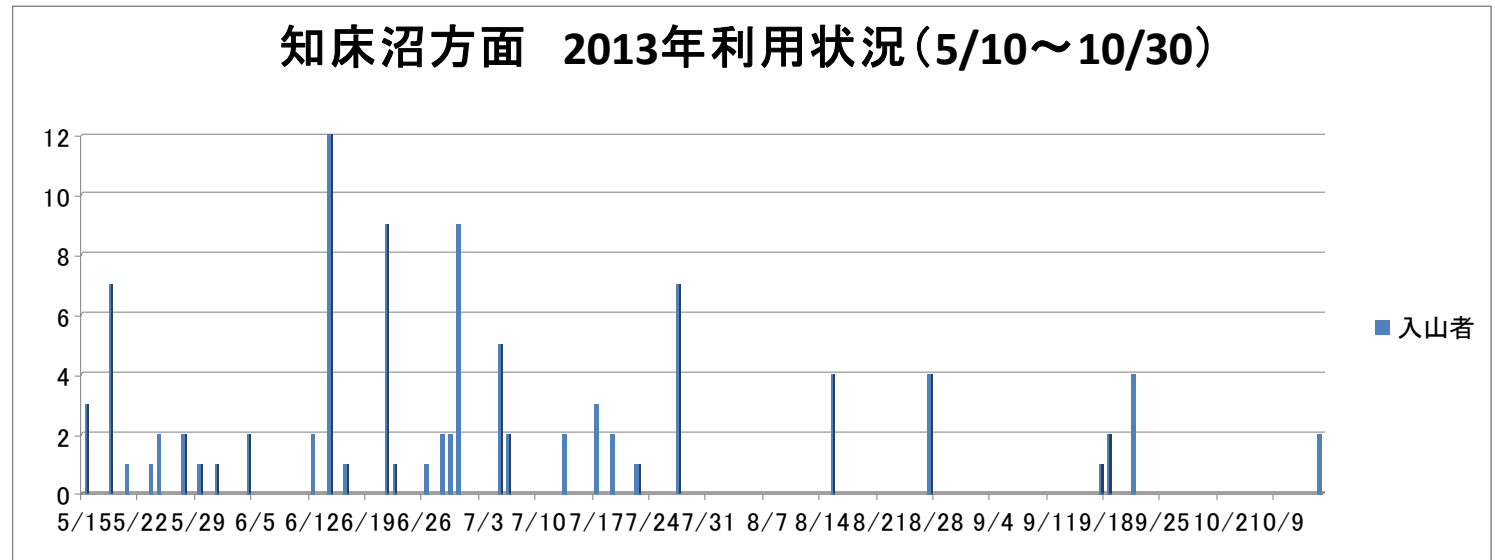
写真上、植生への影響等は特に確認できない。また、現地でも利用による植生への影響は特に認められなかった。

写真撮影者：三宅悠介（環境省 羅臼自然保護官事務所）

写真撮影日：2013年8月27日・28日

2013年知床沼方面の利用状況（5月10日～10月30日）（環境省の利用者カウンターからのデータ）

曜日	月日	入山者
水	2013/5/15	3
土	2013/5/18	7
月	2013/5/20	1
木	2013/5/23	1
金	2013/5/24	2
月	2013/5/27	2
水	2013/5/29	1
金	2013/5/31	1
火	2013/6/4	2
水	2013/6/12	2
金	2013/6/14	12
日	2013/6/16	1
金	2013/6/21	9
土	2013/6/22	1
水	2013/6/26	1
金	2013/6/28	2
土	2013/6/29	2
日	2013/6/30	9
金	2013/7/5	5
土	2013/7/6	2
土	2013/7/13	2
水	2013/7/17	3
金	2013/7/19	2
月	2013/7/22	1
土	2013/7/27	7
木	2013/8/15	4
火	2013/8/27	4
火	2013/9/17	1
水	2013/9/18	2
土	2013/9/21	4
月	2013/10/14	2



知床沼方面の年度別利用者

年 度	利用者数	入林簿記入数
2004 平成 16 年	189	
2005 平成 17 年	144	21
2006 平成 18 年	199	83
2007 平成 19 年	140	86
2008 平成 20 年	120	59
2009 平成 21 年	159	54
2010 平成 22 年	129	42
2011 平成 23 年	83	39
2012 平成 24 年	92	22
2013 平成 25 年	98	43

※利用者数は、環境省の利用者カウンターのデータを使用
 ※入林簿記入数は、北海道森林管理局のデータを使用

